

## 立秋を迎えて

東中野2丁目地域ねこの会を2月に創設して早、半年を迎えます。

地域に住み付いているのらねこたちを排除するのでは無く、活動を地域の環境美化につなげて行き、一人暮らしの高齢者や単身生活の若者との交流を「地域ねこ活動」の目標を通して、住民とのらねこたちとの共生を一緒に考えていこうと、町会としても活動協力を取り入れてくださることになりました。

管轄行政である中野保健所に於いても、長年のらねこによる住民からの苦情内容の解決に向けて頭を抱えていた問題でしたので、この機会に町会とボランティア団体の地域ねこ活動を後押しすることにより、三者協働による取り組みを八月四日東部地域センターにて話し合いの場をもちました。

町会内の住民同士が先ずは「地域ねこ活動」を理解していただく為の相談会 **etc** の機会を設けたり、町会の回覧板や掲示板にてお知らせをしていきたいと考えます。・・・

一人暮らしの高齢者が一歩外に出る目標で。

一人暮らしの若い人からは、エネルギーパワーと活動力で。

一人が孤立するのではなく一人が参加することの意義を感じられる特別の活動ではなく日常生活の中で、当たり前に参加できる会が「地域ねこ活動」だと確信しています。

皆様の参加をお待ちしています。

東中野2丁目は、ずっと長く住める町！住みたい町です。

対立では無く、いつも意見が言える町、自分が誰かに必要な町、

皆が互いに認め合える町、そこに住む自分を認める町。

不幸な飼い主のいない猫を増やさない町・・・

過去において人間の都合で飼い主を失った猫たちを放置していた結果がのらねこを生んでいきました。

犬は登録制が有りますが猫にはありません。

遺棄されても飼い主にたどりつくことはできません。

その日から名前を失います。

町ではのらねこと呼ばれます。

餌を与えてくれた飼い主を失ったねこは、餌を求める術をしりません。狭いテリトリーの中で餓死する猫も多くいます。

弱った猫はカラスのえじきになったり、猫同士の争いで血まみれになり病死する猫もいます。

恵まれない環境の中で、多くのストレスを抱えたねこたちの繁殖活動は1年に2回から3回メス猫は自分の健康と引き換えに子猫を産みます。栄養不良で生まれた子猫は成長を待たずして命を落とすことがあります。

そんな中でも確実に、のらねこの数は増えてきました

飼い猫を不妊手術をしないで外に出すことで、更にのらねこの数は増えてきています。

糞尿被害が起こるのは当たり前です。

それを見て可哀相と餌を与える人間と糞尿被害を受けた人間の対立で過去、何も解決などしていません。

問題は不幸な飼い主のいない猫を増やさない活動です。

勿論、飼い猫は飼い主の家族ですので室内飼育の徹底と不妊手術の必要性を理解していただくことが大事です。

長い時間をかけてきた「地域の不作為結果」と「行政の不作為結果」を反省し、これからは三者（行政・地域・ボランティア）協議で「地域ねこ活動」に自分のできる事から活動に参加していただきます。暦の上では、もう秋ですね



管理人 あすなろより